

那賀高校の活性化に係る計画

平成19年11月

徳島県教育委員会

目 次

I	那賀高校の活性化に係る計画の基本方針	1
II	活性化の具体的な取り組み	2
1	連携型中高一貫教育の特長を活かした活性化	2
2	コースの再編による活性化	3
3	部活動による活性化	4
4	地域連携を軸とした活性化	5
III	広報活動	5
IV	今後のスケジュール	6
V	活性化計画のイメージ図	6

I 那賀高校の活性化に係る計画の基本方針

(1) 那賀高校の現状

那賀高校は、普通科高校として地元中学校と連携型中高一貫教育を実施し、地域に根ざした教育活動を展開しており、地元生徒の占める割合が、6割に達している。

しかし、定員が80名となるなど、小規模化が進み、今後、さらに地域の生徒数が減少することから、生徒数の確保が厳しくなることが予測される。

(2) 高校再編方針における那賀高校のあり方

今後の那賀高校のあり方については、これまで以上に地元中学校との連携を密にし、本計画を推進することにより、生徒の確保に努め、できる限り本校規模を維持し、地域の普通科教育を担っていくこととする。

また、那賀町は、丹生谷地域の広大な面積を有しており、他地域への通学が困難な生徒が多数いることから、那賀高校が、生徒数の減少により、本校規模を確保できなくなった場合には、周辺高校との連携を行い、分校として存続を図っていくこととする。

(3) 活性化計画の基本姿勢

① 中高のスムーズな接続による学力の向上

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生徒の希望する進路実現を図る学力を育成する。

② 恵まれた自然環境や学校の伝統を活かした部活動の充実 全国さらには世界を目指す、活力ある部活動を展開する。

③ 地域との連携を密にした人材育成

地域と共に一人ひとりを大切にした教育を実践する。

Ⅱ 活性化の具体的な取り組み

1 連携型中高一貫教育の特長を活かした活性化

那賀町教育委員会及び連携中学校の協力を得て、中高一貫教育の大きな特長である中学校からの6年間を通して、生徒一人ひとりの個性を生かしたきめ細かな教育を展開する。

(1) 「個人教育記録」の導入

6年間の継続指導を展開するため、連携中学校1年生から、学習指導、進路指導を中心とした、生徒一人ひとりの教育記録を作成する。

(2) カリキュラムの連携

6年間における計画的・継続的な指導を展開するため、カリキュラムを連携する。

① 望ましい職業観・勤労観を育成するため、進路に関する学習、職場体験実習、ライフプランの作成、調査・研究・発表の方法などの学習をする。

② 地域に誇りを持った生徒を育成するため、地域の人材を活用して、地域の自然、歴史・文化、産業などを学ぶとともに、河川の水質浄化やゴミのリサイクル化など地域の課題についての学習をする。

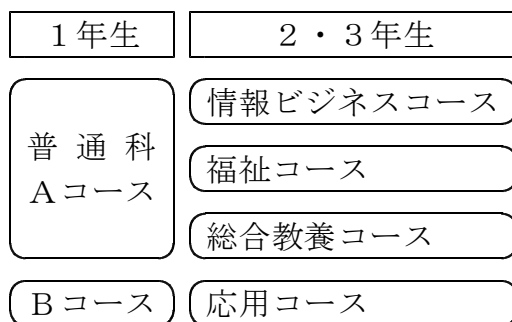
(3) 学校行事の連携

学年の異なる生徒が共通の活動を通し社会性や豊かな人間性を育成するため、中高合同で学習会、体育祭などを実施する。

2 コースの再編による活性化

生徒の個性やニーズを生かした教育を展開するため、新しいコース編成とする。

(1) 新しいコース編成



※ 1年生からBコース（応用コース）を展開する。

(2) コース内容

① 情報ビジネスコース

ア 学習内容

簿記、情報処理検定などの資格取得を目指した学習を展開する。

イ 目指す進路

主として企業への就職や専門学校などへの進学を目指す。

② 福祉コース

ア 学習内容

家庭と福祉に関する科目を中心に学習し、実習教育の充実を図る。

イ 目指す進路

主として福祉施設への就職や専門学校などへの進学を目指す。

③ 総合教養コース

ア 学習内容

基礎学力の向上とワープロ検定など資格取得を目指した学習を展開する。

イ 目指す進路

主として私立大学、短期大学、専門学校への進学を目指す。

④ 応用コース

ア 学習内容

大学進学を目指す生徒の学力向上を図るため、進路に応じたきめ細かな指導を行う。

イ 目指す進路

主として国公立大学進学を目指す。

(3) 学力向上を図る学習指導

土曜補習，早朝補習，個別学習指導を充実させ，基礎学力の定着と応用力の育成を図る。

- ① 学習意欲の向上を図るため，進学に力を入れている高校との合同による進学補習，進学合宿を実施する。
- ② 得意科目の伸長と不得意科目の克服を図るため，組織的な個別学習指導体制の整備・充実を図る。また，長期休業中には，地元出身の大学生など地域の人材を積極的に活用する。
- ③ 一人ひとりの進路を実現するため，小論文指導方法の工夫・改善を図る。

3 部活動による活性化

強い精神力と豊かな人間性を養うとともに，競技力の向上を目指し，カヌー部，バレーボール部，剣道部，ソフトテニス部，硬式野球部などを中心に部活動の充実を図る。

- ① 早期からの競技力の向上を図るため，中高連携，地域連携をより強化し，中高合同練習，小・中学生を対象とした講習会の開催を実施する。
- ② 生徒の意識を高めて，競技力の向上を図るとともに，那賀高校の知名度を向上させるため，那賀高校主催の大会を開催する。
- ③ 競技力の向上を図るため，経験豊かな教員や地域の指導者の確保に努める。
- ④ 県外の中学生カヌー競技者の受け入れについては，地域と連携して受け入れ態勢を整備する。

4 地域連携を軸とした活性化

那賀町唯一の高等学校として、学校と地域が連携した教育活動を実施する。

(1) 地元ケーブルテレビの積極的活用

那賀町の協力を得て、町内全戸に敷設された町営ケーブルテレビを、積極的に活用する。

- ① 那賀高校の教師や生徒による、地域住民を対象とした英語講座などの番組を作成する。
- ② 那賀高校を地域住民に理解してもらうため、那賀高校の学校行事、学習活動などの番組を放送する。
- ③ キャリア教育の一貫として、地元ケーブルテレビ局の指導により、番組作成技術を学ぶ。

(2) 学校開放

地域に開かれた学校として、地域と学校との結びつきを今以上に深化させる。

- ① 小・中・高・地域の合同美術展を開催する。
- ② 検定取得などを対象とした地域開放講座を開設する。
- ③ 地域住民との福祉餅つき大会を開催するなど、地域に貢献するボランティア活動を実施する。

(3) その他

- ① 徳島駅伝那賀町チームに選手派遣協力をする。
- ② 学校寮に加え、那賀町の協力を受けて、那賀町教職員宿舎を活用することにより、遠隔地から入学する生徒を支援する。

III 広報活動

那賀高校への理解を深めるため、中学生・保護者・地域住民への広報活動を実施する。

- ① 広報誌「せせらぎ新聞」の紙面を充実する。
- ② 中学3年生を対象としていた体験入学を、中学校1・2年生向けにも実施する。
- ③ 中学生・保護者・地域住民を対象にオープンスクールを開催する。

IV 今後のスケジュール

コースの再編による活性化については、平成20年度入学生より実施し、その他の取り組みについては、できるものから速やかに実施する。

V 活性化計画のイメージ図

